

記念事業総合プログラム

11/4(thu)

	時間	場所	詳細掲載 ページ
式典	10:30～12:00	北とびあ	7
記念式典 名誉博士号授与式と講演 ドナルド・キーン 記念祝賀会	12:30～14:00		
留学生支援の会主催・留学生チャリティーバザー	13:00～15:00	本学講堂入口ホール	7
留学生によるスピーチコンテスト及び民族舞踊・歌・演奏	15:00～18:00	本学講堂	7
講演 島田雅彦「帰らぬ旅人と私」	16:30～18:00	本学3401教室	7
100周年記念歌披露コンサート タケカワ ユキヒデ他	18:00～19:00	本学講堂	7

11/5(fri)

国際シンポジウム「『言語』の21世紀を問う」(朝日新聞社後援)	10:00～17:30	本学講堂	8
分科会1「抗争する二つの力? 地球化と地域化」			
分科会2「境界の言語と表象」			
総合討論「文化の翻訳・翻訳の言語」			

11/6(sat)

協定校学長らによる国際シンポジウム「21世紀への世界の大学」	10:00～12:30	本学講堂	8
シンポジウム「東京外国語大学の過去、現在そして未来」	14:00～18:00	本学講堂	9
第1部「東京外国語大学の歩みをふりかえる(映像)」			
第2部「ポスト2000年の東京外国語大学像を求めて」			
公開講座「21世紀の世界の中の日本語教育」(日本語教育学会、外国語教育学会後援)	9:30～18:00	本学4号館6階大会議室	9

10/28～12/9

連続講演会「21世紀の国際社会と日本」		本学1317教室	10
10/28、11/11・25・26(13:10～14:40) 12/9(13:30～)		11/26のみ本学講堂	

Others

語学研究所主催公開講座「少数民族の言語と超民族語の世界(3) アジア・太平洋の島々」			10
10/1・8・15・22・29(毎金曜)	18:30～20:30	本学3302教室	
総合文化研究所主催連続講演会「言語と表象」(朝日新聞社後援)		本学3401教室	10
10/7・21・28(16:30～18:00) 10/13・27(15:00～16:30)			
海外事情研究所主催国際シンポジウム「記憶と歴史 近代国民国家形成における国民的『記憶』」			11
2000年3/4(13:00～16:00) 3/5(10:00～16:30)		本学4号館6階大会議室	
AA研主催公開講座「アジア・アフリカの文字がわかる」	13:00～17:00	本学3401教室	11
10/9・16・30、11/6			
AA研主催公開講座「アジア・アフリカの21世紀を読み解くために 人が動く、未来を開く」			11
11/13、12/4・11・18	13:00～17:00	本学2316教室	
AA研主催国際シンポジウム「南アジアにおける言語接触と収束的発達」			12
12/6(12:00～17:00) 12/7～9(10:00～17:00)		文京区 山上会館	
東京外語会主催協賛・映画とトークショー「私たちの時代と外語大 激動の学生運動時代を生きて」			12
11/30	14:00～18:00	本学講堂	
外語祭(各国の語劇、模擬店他)		本学キャンパス	
11/19～23			

東京外国語大学独立百周年(建学百二十六年) に寄せての挨拶

学 長 中嶋 嶺雄(国際関係論)



東京外国語大学は、1999年11月4日に独立百周年(建学百二十六年)の記念式典を挙げる事となりました。1世紀有余の長い期間をのりこえてこの日を迎えることができましたことを、建学以来、本学を支えて下さった多くの方々にご報告し、心からの感謝を捧げたいと思います。

本学は明治6(1873)年11月4日に開設されました。開設後12年目の明治18年、本学は、本学所属の高等商業学校及び東京商業学校と合併され、空白の時代が12年続きました。その後、日清戦争を経過して本学は、明治30(1897)年4月22日に高等商業学校附属外国語学校として再興され、2年後の明治32(1899)年4月4日には東京外国語学校として独立したのです。本年11月4日に独立百周年(建学百二十六年)を記念するのは、日本の近代学制の変転のなかで、本学が経てきた艱難辛苦の歩みと、本学の卒業生たちが、日本及び国際社会のなかで果たしてきた大きな役割を歴史的に回顧し、本学の未来に思いを致すという意味からであります。

本学は建学以来、外国語の教育と研究に先導的な役割を果たしてきました。だが同時に本学は、英語の校名としてForeign Studiesを用いております。「外国語」という言葉がそれに対応するものでありましょう。その意味するところは、言語の習得や研究はもとより、地域研究や国際関係の研究を加えた広い学際的領域を含むものであります。だが、こうした研究には学問的体系の核になるもの、すなわち、基本的な専門領域(discipline)の訓練を要することは言うまでもありません。

グローバル化の中にあつて、日本の国際的諸関係の深まりが急速に進んでいるという現実があります。一方で、科学は人智を越えて発達しました。けれども、異文化間の、あるいは民族間の紛争はつきることなく、悲劇は地球の至る所で起こっております。国際社会に対する日本の貢献を考えると、その背景となる歴史的・社会的・文化的理解がきわめて不十分な状況にあると思います。外国語と地域の文化・社会および国際関係を学ぶことを目的としている本学の担うべき役割とその重要性は、ますます大きくなっているといえましょう。

現在、大学ひいては高等教育について深刻な問題が多面的に提起されています。どの大学も改革を経験していますが、これからの大学が決して平坦な時代を迎えるとは思えません。想えば、本学の歩みも決して平坦ではありませんでしたし、本学の草創期に活躍した本学の教員たち、初期の卒業生たちは、あの時代においてすでに世界を見据えていた者が少なくありません。本学の独立百周年(建学百二十六年)記念は、1世紀以上の本学の歴史を振り返り、これからの地球規模の問題を見据えて、本学の将来を議論し、考え直してみる千載一遇の機会だとも言えましょう。

「歴史の蓄積 21世紀への翔き」 その思いで、百周年記念に多額のご芳志を賜った各位に改めて感謝しつつ、さらに次なる100年、21世紀に向かつての東京外国語大学のあるべき姿を探りつつ飛翔してゆきたいと願っております。

1999年10月

概要

本学は、江戸時代、幕府の天文方に淵源するわが国最古の学府である。時は移り幕末期に至り、幕府は、迫りくる欧米先進国の外圧の下、天文方に「蕃書和解御用」なる翻訳局を設置した。そこで育まれた人材は幕末外交に重要な役割を果たした。本学の確かな起源は、安政4（1857）年1月18日に生徒191名をもって開校した蕃書調所に遡ることができ、これが東京外国語学校の開設の起因となった。

本学の歴史的前身である官立の東京外国語学校は、わが国の近代教育制度の確立に先駆けて、今から126年前の明治6（1873）年11月4日に開設（建学）された。だが、更なる発展を前にして予期せぬ事態に見舞われ、開設後12年目の明治18（1885）年9月22日、同校所属高等商業学校とともに東京商業学校と合併され、廃校となった。後年、東京外国語学校校長になった長屋順耳は、森有礼によるこの廃校処置を「此一国務大臣の不明が、具体的に云えば東京外国語学校の中絶が後年如何なる大損害を国家に与えたかと言うことを思う時は実に戦慄を禁じ得ぬと共に、東京外国語学校なるものが我日本帝国の存在の上に或は少なくも国民の幸福の上に、如何に必要欠く可からざるものであるかと云うことを知る」と述べている。

12年の空白をよぎなくされ、本学は明治30（1897）年4月22日に高等商業学校附属外国語学校として再興された。明治の学制・教育史からは「再興」になるのだが、当時の文部省の立場からは「創立」であった。9月11日の高等商業学校附属外国語学校開校の直前、山口小太郎は、近衛篤磨宛書簡で独立への願いを以下のように述べている。

「元来外国語学校は小生出身の学校にて、十餘年前廃校に相成、同窓者は如何にも遺憾に存じ予ねて復興策を商議罷在、大村〔仁太郎〕君と先年会合の節学校の組織法等の愚見も略ぼ成定し、夫れより大村君に於いて専ら斡旋の労を採られ、閣下の御賛助に依りて遂に議会をも通過し、国民の輿論は語学校再興に歸し申、同窓一統歡喜罷在候。其後文部省の都合にてか語学校は独立の学校足らずして高等商業学校内に設立することと相成、吾等発起者等は聊か不満足を覚えしが、猶ほ将来の発達を期し事業の進捗し行くべきことを樂み居候。」（『近衛篤磨日記』明治30年8月29日来状）

本学では独立を期して同窓会を結成、文部省関係者に対する請願運動を展開した。再興されて2年後の明治32（1899）年4月4日には、東京外国語学校として独立を果たし、その後の永い歴史を歩むことになる。

第二次大戦中の昭和19（1944）年4月26日からは従来の4年制にかわる3年制の東京外事専門学校となった。戦時的要請の強い苦難の時代であったといえる。やがて本学は昭和24（1949）年5月31日に、新制大学としての東京外国語大学（Tokyo University of Foreign Studies）となって今日に至っている。

この間、1960年代末期からは数年間におよぶ大学紛争の試練にもさらされた。現在では学部生・大学院生および約570名もの留学生（留学生比率は全国最高）を含む学生総数4330名の規模となり、まさに「外国学（Foreign Studies）」の総合大学として発展をめざしている。

東京外国語大学沿革略史

1684年	貞享元	12月1日	天文方創置される。
1853年	嘉永6	6月3日	ペリー、浦賀沖に来航、日本に開国を要求。
1857年	安政4	1月18日	蕃書調所開校（九段坂下〔牛ヶ淵〕）。
1862年	文久2	5月18日	蕃書調所、洋書調所と改称、一ツ橋門外（如水会館付近）に新築。翌年に開成所と改称。
<hr/>			
1868年	明治元	12月25日	開成所、開成学校と命名。
1869年	2	6月15日	昌平学校（湯島）を大学本校とし、開成学校・医学校を分局とする。 開成学校の学科は英・仏・独に分けた。
1871年	4	7月18日	文部省設置。翌年、学制を頒布。
1873年	6	11月4日	開成学校から分離独立し、東京外国語学校と称し、一ツ橋通り一番地（現在の共立講堂脇に對面する學術情報センター・ビルの場所《旧一橋講堂跡地》）に開設（本学の建学）。 5学科（英・仏・独・露・清）を設置。
1874年	7	12月24日	英語学科、東京英語学校設置に伴い同校に移行。
1880年	13	3月23日	朝鮮語学科を設置。これにより草梁館語学所を廃止。
1884年	17	3月26日	東京外国語学校、所属高等商業学校を設置。
1885年	18	8月14日	仏独2学科、東京大学予備門に移管（本学の解体始まる）。
		9月22日	東京外国語学校と所属高等商業学校は、私立商法講習所から発した東京商業学校に合併され、学校名は東京商業学校となる。東京外国語学校の教科は第三部（翌明治19年1月には語学部と改称）となる（東京外国語学校の廃校）。同年2月には、語学部を廃止。
1896年	29	1月13日	第九帝国議会、貴族院にて「外国語学校設立二関スル建議案」提出される。
1897年	30	4月22日	高等商業学校に附属外国語学校附設（本学の創立）。 7学科（英・仏・独・露・西・清・韓語）を設置。
1898年	31	5月24日	外国語学校生徒ら同窓会を組織、高等商業学校からの分離独立の請願運動を展開。
1899年	32	4月4日	高等商業学校附属外国語学校は独立し東京外国語学校と改称、文部省直轄3官立専門学校の一つとなる（本学の独立）。神田区錦町三丁目十四番地に新築中の校舎へ移転。伊語学科設置。
1911年	44	1月	新たに5学科（蒙古語、暹羅語、馬來語、ヒンドスターニー語、タミル語）を設置。 韓語学科を朝鮮語学科に改称。
<hr/>			
1913年	大正2	2月20日	神田火災により本校校舎全部を消失。9月本校敷地内に仮校舎を設置。 清語学科を支那語学科に改称。
1916年	5	1月17日	葡語学科を設置し、14学科となる。
1919年	8	9月4日	各学科を部に改正、各部は文科、貿易科、拓殖科に分ける。
1921年	10	4月10日	麹町区元衛町一番地の新校舎に移転。
1923年	12	9月1日	関東大震災により一部建物を除き全焼。
		11月1日	午込区市ケ谷の陸軍士官学校の一部を借り授業開始。
1924年	13	3月3日	麹町区竹平町一番地の文部省跡の新築仮校舎に移転。
<hr/>			
1927年	昭和2	3月28日	朝鮮語部廃止。
1938年	13	3月31日	特修科（修了年限2年）を設置。
1940年	15	7月24日	滝野川区西ヶ原町の元海軍爆薬部跡に木造校舎を新築。
1941年	16	5月21日	暹羅語部を泰語部に改称。
1944年	19	4月26日	東京外事専門学校と改称。 第一部（支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィリピン、イスパニヤ、ポルトガルの9科）及び第二部（ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、英米の5科）を設置。 別科として専修科及び速成科を設置。

		5月31日	麹町区竹平町一番地から滝野川区西ケ原町の新築校舎に移転。
1945年	20	5月	戦災により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術学校、図書館講習所、美術研究所内に移転。
1946年	21	8月16日	マライ科をインドネシア科、フィリピン科をフィリピン科に改称。
		9月	板橋区上石神井一丁目の電波兵器技術専修学校跡地を借用、移転する。
1949年	24	3月23日	北区西ケ原町の校地に戦災復旧木造校舎を新築。
		5月31日	国立学校設置法の施行により東京外国語大学設置（東京外事専門学校を包括して設置）。
		6月1日	12学科（英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリア、スペイン、ポルトガル、中国、蒙古、インド、インドネシア、シャム）を設置。
1951年	26	3月31日	東京外事専門学校を廃止。
1954年	29	9月	留学生別科を設置。
1960年	35	4月1日	留学生課程を設置。
1961年	36	4月1日	学科を科に改称。スペイン学科、蒙古学科、インド学科、シャムその他の7学科をそれぞれスペイン科、ポルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・パーキスタン科、タイ科に改称。 アラビア科を設置。
1964年	39	4月1日	科を語学科に改称。タイ科をインドシナ語学科に改称。アジア・アフリカ言語文化研究所を設置。
1966年	41	4月1日	大学院外国語学研究科修士課程を設置。
1968年	43	4月1日	特設日本語学科を設置。
1970年	45	4月1日	附属日本語学校を設置。
1971年	46	4月1日	田沢湖高原研修施設を開設。
1972年	47	3月	留学生課程を廃止。
1977年	52	4月1日	朝鮮語学科設置。大学院地域研究研究科修士課程を設置。
1980年	55	4月1日	ペルシア語学科を開設。
1984年	59	4月1日	インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称。
1985年	60	4月1日	特設日本語学科を日本語学科に改組。国際交流会館開設。
		11月6日	評議会において府中市旧関東村への移転について意志決定。
1991年	平成3	4月1日	ロシア語学科をロシア・東欧語学科に改組。
1992年	4	4月1日	大学院地域文化研究科博士課程（前期・後期）を設置。 外国語学研究科修士課程及び地域研究研究科修士課程を地域文化研究科に統合。 インドネシア・マレーシア語学科とインドシナ語学科を東南アジア語学科に改組。
		4月10日	附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学生日本語教育センターに改組。
1993年	5	4月1日	アラビア語学科とペルシア語学科を中東語学科に改組。
		6月24日	国の機関等移転推進連絡会議において本学の移転場所として東京都府中市旧関東村を決定。
1995年	7	4月1日	外国語学部を7課程（欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本）3大講座（言語・情報、総合文化、地域・国際）に改組。
1996年	8	4月1日	大学院地域文化研究科に「国際文化講座」（博士講座）を設置。
		8月21日	文部省の国立学校施設計画調整会議において新キャンパス基本設計を了承。
1997年	9	4月22日	創立百周年（建学百二十四年）記念式典挙行。
		9月26日	府中新キャンパス起工式挙行。
1998年	10	10月1日	ISEP TUFs（東京外国語大学国際教育プログラム）開設。
1999年	11	4月1日	大学院地域文化研究科に「国際協力講座」（博士課程）を設置。
		11月4日	独立百周年（建学百二十六年）記念式典挙行。 『東京外国語大学史』（東京外国語大学史編纂委員会編）刊行。



梅謙次郎（1860 - 1910）は東京外国語学校仏語学科を卒業、フランスに留学、法学博士となって帰国し、民法及び商法の代表的起草者となった。本学が再興に向かう時、法務大臣として母校復活の経過を実務の関係から注視していた。写真左は、民法が明治31年に施行され百周年、及び商法が明治32年に施行されて百年の節目を記念し、平成11年7月19日に発行された郵便切手。中央は梅謙次郎、左は富井政章（1858 - 1935）梅と同じく仏語学科卒業、民法の代表的起草者である。

写真右：本学は、日清戦争を經過して、明治30年高等商業学校附属外国語学校として再興された。「独立」はその2年後に達成される。本学再興に向け中心となって尽力したのは大村仁太郎（1863 - 1907、明治7年東京外国語学校独逸語学科入学、13年卒業）であった。写真は、1903年1月、2年間のドイツ滞在を終えて帰国の途につく直前、ベルリンの送別の宴で、杯をもって立つ大村仁太郎。

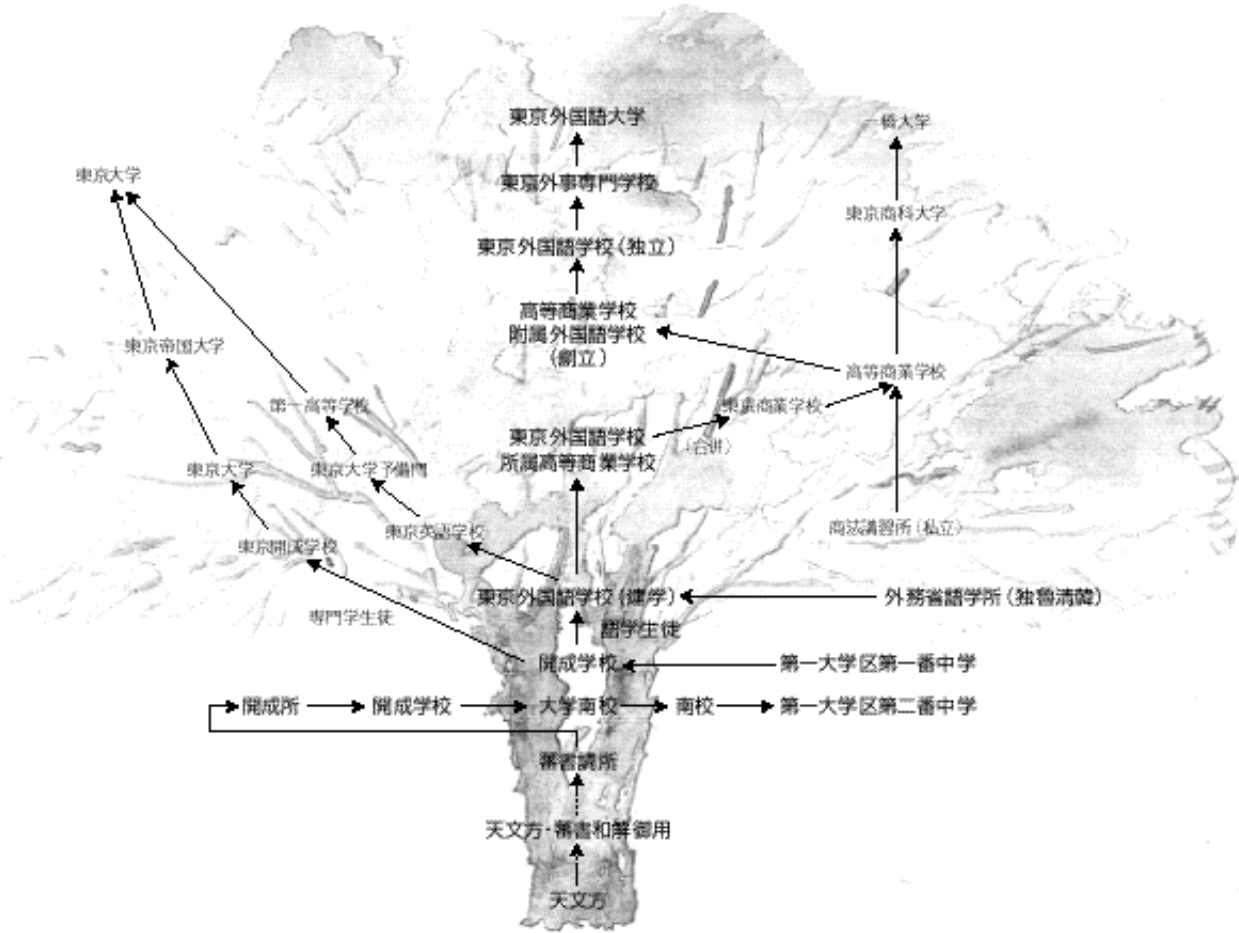


開成学校鳥瞰図



西ヶ原キャンパスの前庭と講堂、1号館、図書館

東京外国語大学沿革略図



記念事業プログラム概要

11/4(thu)

■記念式典

(北とぴあ・さくらホール=JR王子駅)

10:30~12:00

開会の辞

大学歌合唱(本学混声合唱団「コールソレイユ」)

学長式辞

祝辞 (文部大臣、一橋大学長、東京外語会理事長)

名誉博士号授与式と講演(ドナルド・キーン)

祝賀演奏 ブラームス「大学祝典序曲」(本学管弦楽団)

閉会の辞



ドナルド・キーン(Donald Keene)氏への名誉博士号授与

世界的に注目されるアメリカの日本文学研究であるドナルド・キーン氏は、斬新な発想と息の長い研究活動による古典から近世・現代におよぶ日本文学研究で、『日本文学の歴史』『百代の過客』など数多くの業績をあげている。また近松門左衛門、太宰治、三島由紀夫、安部公房らの翻訳(英訳)などで、日本文化・芸能を広く海外に紹介した功績は大きい。その日本文学・文化に取り組む真摯な研究姿勢は、諸外国の言語文化の教育・研究を旨とする本学にとっても、大きな刺激となっている。一方、東京外国語大学諮問委員としても貴重な意見を表明し、本学に寄与するところ大である。故に、本学百周年を迎え、東京外国語大学最初の名誉博士号をドナルド・キーン氏に贈ることができるのは、きわめて意義深いことと思われる。

■記念祝賀会

(北とぴあ・飛鳥ホール)

12:30~14:00

■「留学生支援の会」主催「留学生チャリティーバザー」

13:00~15:00 本学講堂入口ホール

教員・職員・OB・学生・一般市民から構成される留学生支援のボランティア団体「留学生支援の会」(会長:中嶋洋子・学長夫人)による留学生のためのチャリティーバザー。

■「留学生による日本語スピーチ・コンテスト」

15:00~18:00 本学講堂

協賛/凡人社、アルク、スリーエーネットワーク、ジャパントイムズ、講談社インターナショナル
出場資格/日本語を母語としない、本学在籍中の留学生

(留学生日本語教育センター、学部学生、研究生、AA研研究生、ISEP留学生)

出場部門/(1)日本語学習歴3年未満の部 (2)3年以上の部

優秀者に、東京外国語大学長賞、留学生日本語教育センター長賞、会場審査員賞、参加者全員に図書券、東外大特製グッズを進呈する。アトラクションとして民族舞踊・歌・演奏など。

■講演 講師/島田雅彦「帰らぬ旅人と私」 司会/亀山郁夫(本学教授)

16:30~18:00 本学3401教室

島田雅彦氏 1961年東京に生まれる。本学ロシア語学科卒業。1983年『優しいサヨクのための嬉遊曲』を発表し、大きな注目を集める。『夢遊王国のための音楽』で第6回野間文芸新人賞を受賞。代表作に『天国が降ってくる』『夢使い』『彼岸先生』(泉鏡花賞受賞)『浮く女、沈む男』『子どもを救え』『自由死刑』がある。「帰らぬ旅人と私」と題する今回の記念講演は、フランシスコ・ザビエルの旅を柱に、古今東西の旅人の記録に対するコメントで構成される。

■「百周年記念歌」披露コンサ-ト

18:00~19:00 本学講堂 タケカワ ユキヒデ(本学英米語学科卒業)他

11/5^(fri)

■国際シンポジウム「『言語』の21世紀を問う」後援/朝日新聞社

Cultural Discourse and its Prospect for the 21st Century

10:00~17:30 本学講堂

本シンポジウムは、政治・経済のグローバル化、情報の世界化という人類未曾有の諸現象を伴いつつやってくる21世紀において、人間の最大・最高の武器たる言語がどのように変化・変容、あるいは特殊性を保ち続けながら、いかなる役割を担い、いかなる文化的な可能性を切り拓くべきかを討議し、明らかにすること、つまり、人間のあらゆる文化的な営みを包み込んだ「言語」表現の21世紀を展望することを目的とする。境界を乗り越えようとする力がグローバル化であり、外側からの浸透を抑制して内側へ働く力がローカリゼーションであるなら、21世紀の地球では、この二つのベクトルがどのような言語文化・表象を生み出していくのか。本学の研究者のみならず、学外、さらに外国からも学者、作家、編集者などの参加を得て、豊かな発想のもとに発展的な討論を行いたい。なおこれは文部省の平成11年度国際シンポジウムとしても採択されている。

分科会1「抗争する二つの力? 地球化と地域化」司会/宮崎恒二(本学AA研教授)

10:15~12:15

報告者/テッサ・モーリス・スズキ(オーストラリア国立大教授)

バルバラ・ピッツィコーニ(ロンドン大学SOAS講師)

西江雅之(早稲田大学教授) 川口裕司(本学助教授)

分科会2「境界の言語と表象」司会/谷川道子(本学教授)

13:30~15:30

報告者/多和田葉子(作家) 小森陽一(東京大大学院教授)

グリゴリー・チハルチシビリ(ロシア「外国文学」副編集長) 荒 このみ(本学教授)

総合討論「文化の翻訳、翻訳の言語」司会/西永良成(本学教授)

15:45~17:30

討論者/マーガレット・ミツタニ(共立女子大教授) アンジェロ・イシ(ポルトガル語講師・通訳)

柴田勝一(本学助教授) 磯谷 孝(本学教授) 富盛伸夫(本学教授) 和田忠彦(本学教授)

11/6^(sat)

■協定校学長らによる国際シンポジウム「21世紀への世界の大学」(使用言語・英語)

International Symposium by University Presidents

“Universities in the World for the 21st Century”(in English)

10:00~12:30 本学講堂

東京外国語大学はこのところ大学の国際化に積極的に取り組んでおり、交流協定を締結した外国の大学は約30か国・地域、50校近くにのぼっている。本学には現在、学生総数の約14%、570名の留学生が世界各地から来ており、我が国の大学のなかで留学生比率が最も高い異文化交流の拠点になりつつある。しかし、本学が国際的競争力を持つ大学に飛躍するまでには、なお一層の努力が必要である。今回は、記念式典に参加される世界の主要な大学の学長とともに、21世紀に向けての大学の在り方について語り合いたい。

T.P.Lankester(ロンドン大学SOAS) Andre Bourgey(フランス国立東洋言語文化学院) Gunal Akubay(アンカラ大学) Peter Timmer(カリフォルニア大学サンディエゴ校) John Richards(オーストラリア国立大学) 王路江(北京語言文化大学) 鄭丁旺(国立政治大学(台湾)) Ki-Jun Lee(ソウル大学) Byung Soo Kim(延世大学)らの各学長。

日本からも、木村 孟（学位授与機構長、前東京工業大学長）、本学の中嶋嶺雄学長（司会）らが出席の予定。

■シンポジウム「東京外国語大学の過去、現在そして未来」

14:00～18:00 本学講堂

第1部 / 東京外国語大学の歩みをふりかえる

1. 東京外国語大学の歩み

明年に迫ったキャンパス移転を前にして、本学の建学時から現在に至るまでの歩みを映像を用いてふりかえる。

2. 東京外国語大学を検証する

本学の自己点検評価報告書、大学諮問委員会資料、卒業生外部評価委員会をもとに、その他、学生や卒業生に対するアンケート、予備校や企業など外部諸団体によりなされた評価を参考にしながら本学の現状について検証する。

第2部 / ポスト2000年の東京外国語大学像を求めて

このパネル・ディスカッションでは、「外国語教育」「国際化」「個性」というテーマを中心にして、国際化の進展しつつある日本の大学教育において、21世紀に向けた本学の将来像構築への有意義な接近を試みる。

パネラー / 堤 清二（セゾン文化財団理事長）、木村 孟（学位授与機構長）、米原万里（作家）他の
本学諮問委員、本学卒業生、本学教官の諸氏

■公開講座「21世紀の世界の中の日本語教育」後援 / 日本語教育学会、外国語教育学会

協賛 / 凡人社、アルク、スリーエーネットワーク、大修館書店、研究社、ジャパンタイムズ、
講談社インターナショナル

9:30～18:00 本学4号館6階大会議室

本学（日本課程及び留学生日本語教育センター）の日本語教育の歴史・現状及び海外の日本語教育の動向についての報告を行うとともに、他言語から見た日本語の特徴についての考察に基づき、21世紀の世界における日本語教育の内容と方法を探る（予稿集は当日実費頒布）。

午前の部 9:30～12:30

「異文化コミュニケーションと日本語教育」岡田昭人（本学留学生日本語教育センターISEP TUFS講師）

「日本語の音声教育」 鮎澤孝子（本学教授）

「イギリスにおける日本語教育」 バルバラ・ピッツィコーニ（ロンドン大学SOAS講師）

「日本語の語彙と文法の教育」 姫野昌子（本学留学生日本語教育センター長）

「日本語教育の内容と方法」 窪田富男（大東文化大学教授、本学名誉教授）

午後の部 13:20～18:00

特別講演「英語と中国語と日本語」 湯廷池（台湾元智大学教授）

「台湾における日本語教育」 谷口龍子（（財）交流協会台北事務所文化室）

「英語からみた日本語」 中村 彰（本学留学生日本語教育センター講師）

「中国語からみた日本語」 望月圭子（本学助教授）

「ドイツ語からみた日本語」 成田 節（本学助教授）

「スペイン語からみた日本語」 高垣敏博（本学教授）

10/28 ~ 12/9

■連続講演会「21世紀の国際社会と日本」

10/28 ~ 12/9 (各木曜、金曜)

13:10 ~ 14:40 (12/9のみ13:30 ~) 本学1317教室(11/26のみ本学講堂)

21世紀の世界はどのようなものとなるのだろうか。10年前、半世紀にわたって国際関係の秩序を形成してきた冷戦構造が崩壊し、世界は新たな秩序を模索し始めた。アメリカのヘゲモニー、国民国家の動揺、テクノロジーの急速な進歩、経済的グローバル化などの大きなうねりの中で、日本をとりまく情勢はどのように展開していくのであろうか。そして、日本は新しい世紀の動きにどのように対応していかねばならないのだろうか。

独立百周年を記念して、アカデミズム、企業、財界、マスメディア、NGOなどで活躍する本学の卒業生たちが、その体験を通して21世紀の世界と日本について語る。

10/28(木)「国際社会の変動と日本」 中嶋嶺雄(本学学長)

11/11(木)「国境なき医師団(MSF)と私」 寺田朗子(NGO「国境なき医師団」日本会長)

11/25(木)「現地社会と企業」 佐藤行信(カルピス株式会社顧問)

11/26(金)「グローバル化とメディア」 小西克哉(ジャーナリスト)

12/9(木)「第三の開国を迎えて 21世紀の新しい日本の姿」

藤原作弥(日本銀行副総裁)

Others

■語学研究所主催公開講座「少数民族の言語と超民族語の世界(3) - アジア・太平洋の島々」

10/1 ~ 29 (毎金曜) 18:30 ~ 20:30 本学3302教室

過去2年にわたって、本講座では少数民族の言語の問題や、伝統的な国語・公用語として存在する言語の諸問題を取り上げてきた。本年度はシリーズ第3弾として、アジア・太平洋島嶼部を例にして、この地域に住む様々な人々の文化をもっとも特徴づける言語の問題を取り上げて考える。(有料)

10/1「移民族国家インドネシア共和国の共通語」 佐々木重次(本学教授)

10/8「ジャワの言語と文化」 石井和子(本学教授)

10/15「マレーシアの言語と言語問題」 正保 勇(本学教授)

10/22「1時間でフィリピン語の世界へ」 小川英文(本学助教授)

10/29「トラックの言語と文化」 杉田 洋(東京学芸大教授)

■総合文化研究所主催連続講演会「言語と表象」後援/朝日新聞社

水曜15:00 ~ 16:30 木曜16:30 ~ 18:00 本学3号館3401教室

20世紀において開発され、飛躍的な発展を遂げた映画、テレビ、劇画など映像文化が、文字文明の誕生以来、人類の記憶継承の主要な役割を担ってきた文学の想像と受容及び解釈などの、言語文化にいかなる影響と刺激を与えたか。それに伴い、歴史的に言語文化と併存してきた絵画、音楽などの伝統的な表象文化に対して文学がいかなる眼差しを向けるようになったか。その結果として文学、言語文化に異なる変容が生じ、それが21世紀の人類文化にいかなる展望を開くものとなりうるのか。本講演会は、そういったことを中心課題として、わが国を代表する多文化的(マルチ・カルチュラル)な活躍をしている著名な学者、作家、批評家がそれぞれの立場から講演する。

10/7(木)「テクノロジーと建築」 飯島洋一(多摩美術大助教授)

10/13(水)「筆触のマテリアリズム」 松浦寿夫(本学助教授)

10/21(木)「現代詩 - その自由とエロス」 松浦寿輝(東京大大学院助教授)

10/27(水)「現代芸術と庭の思想」 小林康夫(東京大大学院教授)

10/28(木)「トランス・カルチュラル・アドヴェンチャー」池田理代子(作家)

■海外事情研究所主催国際シンポジウム「記憶と歴史 近代国民国家形成における国民的『記憶』」

2000年3/4(土) 13:00~16:00、3/5(日) 10:00~16:30 本学4号館6階大会議室

アンダーソンの『想像の共同体』以来、国民国家が民族や社会の同質性の上に自生的に形成されるものではないことが広く認識されるようになり、また冷戦崩壊後、国家によって封印されてきた多様な記憶が噴出して来ている。歴史家ピエール・ノラは、記憶は生きている集団に担われ、具体的なものに則して変化する情動的なものであるのに対して、歴史はもはや存在しない過去の表象、不完全な再構築、分析批判の知的作業であるとし、記憶破壊者たる歴史がいかに記憶に関われるかと問い、「記憶の所在」を構想した。このような記憶と歴史をめぐる近年の研究を深めるべく、科学研究費プロジェクトを組織し、本国際シンポジウムを開催する。(海外の発表者は交渉中)

3/4(土) 13:00 問題提起 「記憶と歴史のあいだ」上村忠男(本学大学院教授)

14:00 第一セッション「記憶と歴史 歴史叙述をめぐって」

パトリック・ハットン(アメリカ)

岩崎 稔(本学助教授) 工藤光一(本学助教授)

3/5(日) 10:00 第二セッション「近代国民国家形成と記憶の動員」

ジョン・E・ボードナー(アメリカ)

立石博高(本学教授) 成田龍一(日本女子大教授)

13:00 第三セッション「戦争の記憶 民衆の記憶、国家の記憶」

小原雅俊(本学教授) 藤田 進(本学教授)

ダイアナ・ウォン(マレーシア)

15:00 総合討論

■アジア・アフリカ言語文化研究所主催公開講座「アジア・アフリカの文字がわかる」

10/9~11/6(各土曜) 13:00~17:00 本学3号館3401教室

文字には日本人なら誰もが関心を寄せ、思い入れを持ち、それぞれ一家言を持っているとも言える。本講座は日本を含む東アジアの文字に留まらず、その向こうに広がるインド系の文字、西アジア・アフリカの文字を歴史的、文化的、社会制度などの視点から、あるいは情報学的な観点などから多面的に理解することを目的として開講する。(有料)

10/9「インド系文字の系譜」

町田和彦(本学AA研教授)

「中国の女文字 - その意義と現状」

遠藤織枝(文教大教授)

10/16「文字の創造 - 民族の危機が生み出す文字」

長田俊樹(国際日本文化研究所センター助手)

「シャン文化圏の文字」

新谷忠彦(本学AA研教授)

10/30「中央アジアの諸民族の文字」

新免 康(本学AA研助教授)

「東アジアの未解決文字」

中嶋幹起(本学AA研教授)

清格爾泰(元内蒙古大学学長)

11/6「文字のデザイン」

鳥海 修(字遊工房代表取締役)

「コンピュータと文字」

芝野耕司(本学AA研教授)

■アジア・アフリカ言語文化研究所主催公開講座

「アジア・アフリカの21世紀を読み解くために 人が動く、未来を開く」

11/13,12/4・11・18(各土曜) 13:00~17:00 本学2号館2316教室

今、世界は国家の枠組みにとらわれない本格的なボーダーレス時代に突入しつつある。特に目立つのは、アジア・アフリカ地域に住む人々の移民や出稼ぎに代表される動きである。彼らは隣国との国境どころか、アジア・アフリカといった大きな地域の枠組みまで飛び越え、欧米や日本にすら活躍の場を求めている。こうして人類はかつてないほど大規模な接触と衝突を経験しており、民族問題の火種が生まれる一方、異文化交流による新たな文化や政治意識の創造も進んでいる。本学AA研では、このような人の移動現象とその政治的・経済的・文化的影響に早くから注目し、地域別共同研究を組織してきた。

本公開講座では、この成果を踏まえ、極東から大西洋岸まで、アジア・アフリカを横断する形で人の移動をとらえ直し、21世紀の世界を読み解く一つの鍵を提供する。(有料)

- | | | |
|----------|-------------------------|----------------|
| 11/13(土) | 「移動と文化：公開講座の開講にあたって」 | 宮崎恒二(本学AA研教授) |
| | 「極北に暮らす遊牧民チュクチの伝統文化」 | 呉人徳司(本学AA研助手) |
| 12/ 4(土) | 「中国人の移動とその社会・文化的適応」 | 三尾裕子(本学AA研助教授) |
| | 「インド洋海域世界における交易と人の移動」 | 家島彦一(本学AA研教授) |
| 12/11(土) | 「インド人移民社会の諸相」(仮題) | 内藤雅雄(本学AA研教授) |
| | 「都市への移住が支える中東現代イスラーム運動」 | 飯塚正人(本学AA研助教授) |
| 12/18(土) | 「近現代の中央アジア地域における人の移動」 | 新免 康(本学AA研助教授) |
| | 「西アフリカにおける人の移動と社会変容」 | 小川 了(本学AA研教授) |

■アジア・アフリカ言語文化研究所主催国際シンポジウム

「南アジアにおける言語接触と収束的発達」

12/6(月) 12:00~17:00 12/7(火)~9(木) 10:00~17:00 文京区山上会館

本シンポジウムの目的は、南アジアの諸言語のさまざまな共通特徴について考察することにある。南アジアで話されている諸言語は4つの言語グループに属している。すなわち、インド・アーリアグループ、ドラヴィダグループ、チベット・ビルマグループ、オーストロ・アジアグループである。系統を異にするとはいえ、これらの諸言語には多くの共通点が存在するが、それは数千年に及ぶ相互接触によるものと考えられる。本シンポジウムでは、南アジア諸言語の共通点について検討し、さらに南アジア言語領域を越え、中央アジアを含む、より大きな言語領域の可能性を検討する。

参加予定者は外国からは、Hans Hock(Univ. of Illinois)、Boris Zakharyin(Moscow State Univ.)、Rajendra Singh(Univ. of Montreal, Canada)、Andre Sjoberg(Univ. of Texas)、Ian Smith(York Univ.)、L.V.Khokhlova(Moscow State Univ.)、Norman Zide & Gregory Anderson(Univ. of Chicago)、K.V.Subbarao(Delhi Univ.)の諸氏他。

■東京外語会主催百周年記念協賛 映画「わが愛の譜 滝廉太郎物語」とトークショー

「私たちの時代と外語大 激動の学生運動時代を生きて」

11/30(火) 14:00~18:00 本学講堂

パネリストとして映画演出、作家活動等ですすでにお馴染みの方々を迎えて、それぞれが生きてきた時代を振り返り、どのような学生生活を送ったか、それはその後の自分にどのような影響を与えたか、そして今母校にどのような期待を寄せているか、などについて語る。それぞれの時代を彷彿とさせるAV演出にも工夫をこらす計画である。沢井監督の映画「わが愛の譜 - 滝廉太郎物語」も上映。

ゲスト挨拶 / 中嶋嶺雄学長

パネリスト / 沢井信一郎(映画監督)、森 詠(作家)、吉永みち子(ノンフィクション作家)

司会 / 大谷達之(東京外語会文化委員)

東京外国語大学歌

作詞：柴原徳光・安藤一郎
作曲：清瀬保二

1 天地のひらめく あけぼのに
プロメーテウスの 炬のごとく
いざや掲げん 燃ゆる理想を
大いなる視野 ひらけゆく
ああ 東京外語大
われらの行手 永久に輝く

2 若き精神^{こころ}を 相結び
言葉の園^{その}に わけ入りて
探り賞^めでなん 真理の花を
世界の同胞^{はらから} 一にして
ああ 東京外語大
われらの歩み 平和に満つる

3 長き歴史を いしずえに
日々新たなる 力もて
承けつぐ築く 文化の堂宇
東亜の声を 伝えつつ
ああ 東京外語大
われらの誇 さらに加えん

独立百周年記念歌

東京外国語大学の同窓会である東京外語会が、独立百周年の記念歌を募集、鈴木幸壽理事長、中嶋嶺雄学長、タケカワユキヒデ（E昭58）氏を選者として、次の三曲が選ばれました。入選第一席は、いずれも前田知巳（C昭63）作詞、蓮実重臣（M平3）作曲による“VOYAGERS”と“新しい世界”の二曲、第二席は、古茶兵衛（R昭25）作詞、鍋島佳緒里作曲による“世界をめざす若人”です。この三曲は、かつての寮歌“キンキラ節”も含めて、独立百周年（建学百二十六年）を記念するものとして、この11月にCD化され、広く頒布されます。

VOYAGERS

作詞：前田知巳
作曲・編曲：蓮実重臣

新しい世界

作詞：前田知巳
作曲・編曲：蓮実重臣

世界をめざす若人

作詞：古茶 兵衛
作曲・編曲：鍋島佳緒里

新しいキャンパスに向かって

本学東京外国語大学が学問・研究の分野において果たすべき役割は、世界の諸文化の相互理解と国際交流の時代を迎えた今日、さらに一段と高い飛躍が求められているといえるでしょう。

それに応えるためにも、現在地より広く、ゆとりのある敷地に移転統合し、施設・設備等の拡充・整備を図る必要があると、本学は現在多くの方たちの協力を得て、新しいキャンパス作りの実現に向けて努力しているところです。

新キャンパスは、東京都府中市の東北部に位置し、敷地周囲に豊かな緑地帯を設け、将来にわたっても武蔵野の森のイメージを継承できるような計画として進行しています。

2000年（平成12年）春の完成予定で、現在、研究講義棟、附属図書館および大学会館の建設工事が進んでおり、2000年（平成12年）秋からは外国語学部および大学院の授業が新キャンパスでスタートします。

アジア・アフリカ言語文化研究所、留学生日本語教育センター等についても、2001年～2002年（平成13～14年）度の完成を目途としています。



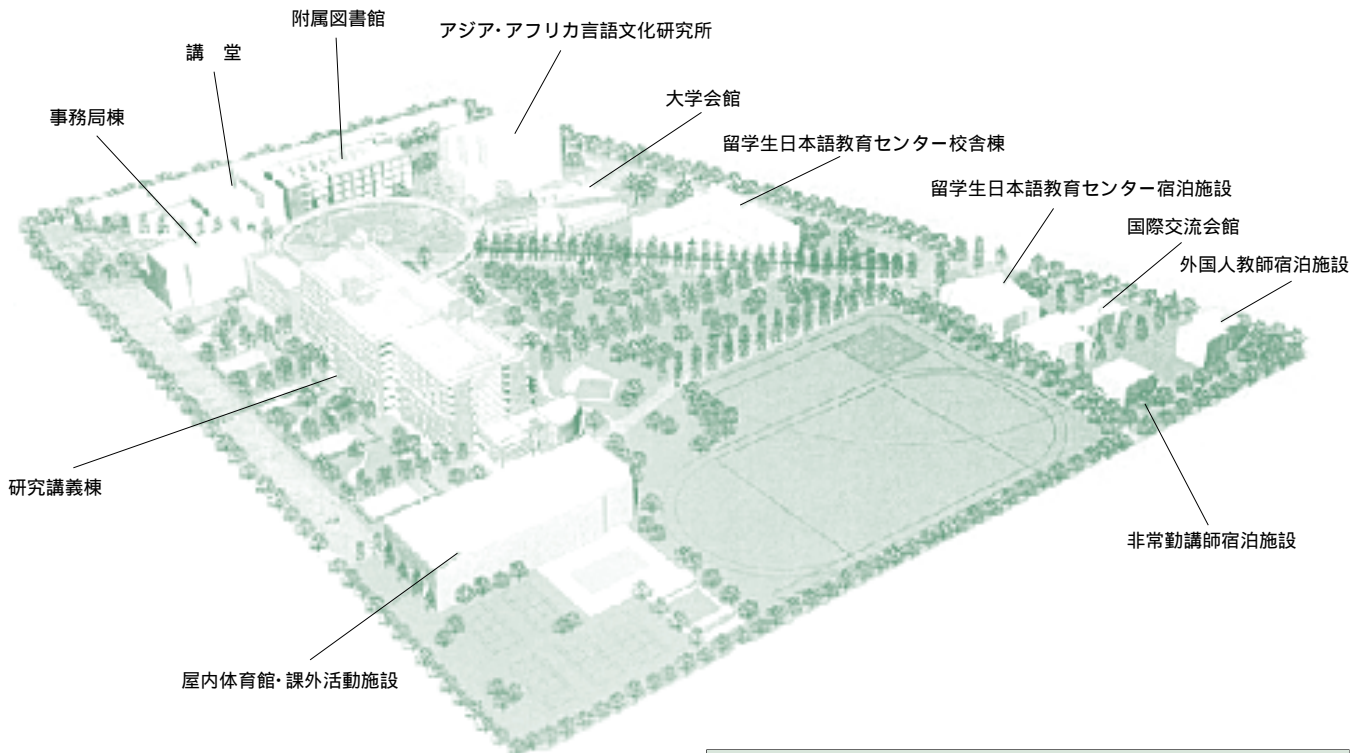
研究講義棟



附属図書館



大学会館



所在地 ・東京都府中市朝日町3丁目11-1
交通案内 ・西武多摩川線「多摩墓地前」駅下車 徒歩5分
・京王線「飛田給」駅下車 徒歩20分

東京外国語大学と日本の百年を築いた人々
プログラム表紙の人物紹介

- 1 八杉貞利(1876-1966)ロシア語学者
- 2 加藤高明(1860-1926)外交官・首相
- 3 新美南吉(1913-1943)童話作家、代表作「ごん狐」
- 4 梅謙次郎(1860-1910)法学者(民法の起草)
- 5 岩崎民平(1892-1971)東京外国語大学学長・英語学者
- 6 大杉栄(1885-1923)社会主義運動家
- 7 中江兆民(1847-1901)東京外国語学校校長・思想家
- 8 神谷衡平(1883-1943)漢語学科教員
- 9 山上正義(1896-1938)ジャーナリスト
- 10 鈴木於菟平(1863-1923)露語学科教員
- 11 井上翠(1875-1957)中国語学者
- 12 細江逸記(1884-1947)英語学者
- 13 浅田栄次(1865-1914)英語教育者
- 14 谷口秀太郎(1877-1937)ドイツ語学者
- 15 長屋順耳(1874-1934)東京外国語学校校長
- 16 永井荷風(1879-1959)作家
- 17 岡倉天心(1863-1913)東京美術学校校長
- 18 内村鑑三(1861-1930)キリスト教伝道者
- 19 大村仁太郎(1863-1907)ドイツ語学者
- 20 中原中也(1907-1937)詩人
- 21 二葉亭四迷(1864-1909)作家
- 22 村井知至(1861-1944)英語学科教員・社会主義運動創始者
- 23 瀬川重寛(1831-1891)漢語学科教員
- 24 山口小太郎(1866-1917)ドイツ語学者
- 25 黒田清輝(1866-1924)洋画家
- 26 石川淳(1899-1987)作家
- 27 メーチニコフ(1838-1888)露語学科教員
- 28 有島生馬(1882-1974)洋画家
- 29 鮎貝房之進(1864-1946)朝鮮研究者
- 30 平生釧三郎(1866-1945)文部大臣
- 31 市川文吉(1847-1927)魯語学科教員
- 32 鈴木文史朗(1890-1951)ジャーナリスト
- 33 新渡戸稲造(1862-1933)教育者
- 34 鄭永昌(1854-1931)外交官
- 35 古賀十二郎(1879-1954)「長崎学」創始者
- 36 田中慶太郎(1880-1951)文求堂主人
- 37 会田由(1903-1971)スペイン文学研究者
- 38 柏熊宜三(1908-1956)イタリア文学研究者
- 39 秩父固太郎(1876-1948)中国語教育者
- 40 ポール・ジャクレ(1897-1915,1919-1921 在職)仏語教員
- 41 金沢庄三郎(1872-1967)朝鮮語学者
- 42 川島浪速(1865-1950)満蒙独立運動家
- 43 レオン・デュリー(1822-1891)仏語学者
- 44 宮島大八(1867-1943)漢語学科講師・書家
- 45 五味川純平(1916-1995)作家
- 46 中田敬義(1858-1943)外交官
- 47 原田直次郎(1863-1899)洋画家
- 48 安藤謙介(1854-1924)愛媛・新潟・横浜等県知事
- 49 オースティン・W・メドレー(1875-1940)英語教育者
- 50 大島正健(1859-1938)教育者・言語学者(写真・左)

東京外国語大学独立百周年(建学百二十六年)
記念事業プログラム

発行 1999年10月1日
発行者 東京外国語大学独立百周年(建学百二十六年)記念事業委員会
〒114-8580 東京都北区西ヶ原4-51-21
TEL: 03-3917-6111(代)
FAX: 03-5974-3109(庶務課)
URL: <http://www.tufs.ac.jp>
構成・デザイン・印刷 風工房

裏表紙

46	41	36
47	42	37
48	43	38
49	44	39
50	45	40

表紙(人物写真)

31	26	21	16	11	6	1
32	27	22	17	12	7	2
33	28	23	18	13	8	3
34	29	24	19	14	9	4
35	30	25	20	15	10	5

独立百周年ロゴ

T = Tokyo

U = University
of

F = Foreign

S = Studies

目次

記念事業総合プログラム 1

東京外国語大学独立百周年(建学百二十六年)に寄せての挨拶 2

東京外国語大学沿革 3

東京外国語大学沿革略史 4

記念事業プログラム概要 7

東京外国語大学歌 13

独立百周年記念歌 14

新しいキャンパスに向かって 15

プログラム表紙写真人物紹介 16